



企業会計の 17年度決算を認定

9月定例会において、合併後の平成17年10月から平成18年3月までの横手市病院事業会計と横手市水道事業会計の企業会計2件が、決算特別委員会に付託されました。決算特別委員会は赤川堅一郎委員長ほか13名で構成され、9月5日、6日に審査が行われました。

なお、審査結果は9月定例会最終日の22日に赤川委員長より報告があり、討論、採決の結果、企業会計2件の決算を全会一致で認定しました。

審査された主な内容を紹介します。

横手市水道事業 会計

水道料金をどのように 平準化するの

質疑 増田、平鹿、十文字の配水区は成瀬ダムの権利金を負担することになると思うが、この負担金はどの程度か。

答弁 成瀬ダムの負担金は、水道水源整備事業という国庫補助事業で進めている。負担金は併せて5億5千万円位で、14年度から納めている。そのうちの3分の1から2分の1が国庫補助で、実質的には4億ぐらいの負担金になる。

質疑 未収金が8900万と大変大きな額だが、どういう形で回収する努力をされるのか。

答弁 収納担当が、毎日のように電話連絡、家庭訪問して回収にあたっているが、日中いない方も多く再三に渡り、戸別訪問をしている。7月から試験的に徴収業務員を委託している。400軒ほど

回って直接の徴収金額は約50万ほどであるが、地域局へ直接納入する人もあり、成果を発揮しつつある。

質疑 ばらつきのある水道料金を平準化していきたいというが、どういう形で進めるのか。

答弁 料金の安いところが上がった場合、ただ高くなったという考え方を取るか、それとも将来に対する投資として積み立てていくという考え方を取るか、その辺の考え方もあると思う。平準化といえは高いところが下がるといふこともあるので、それら諸々資料を出しながらご意見を頂きながら検討していかなければならないと考えている。

横手市病院事業 会計

医師確保の今後の 見通しはどうか

質疑 横手病院の支出の決算の執行率が94・5%ということでは

あったが、約5%が残った理由

答弁 秋田大学派遣の非常勤医師の動向が不確定だったため、本来であれば、3月議会で減額補正等を行うべきだったが、ぎりぎりまで動向が確定しなかったことが大きな理由である。

質疑 横手病院・大森病院のそれぞれ別の患者1人1日あたりの入院・外来の単価に差がみられる理由は。

答弁 診療報酬には約4千の項目があり、診療科目により必ずしも一致せず、医療内容の質により差が出る。

大森病院については、高齢者・慢性疾患が多い状況から、低くなっていると分析している、両病院とも類似病院より入院、外来とも単価が低くなっている。

質疑 休診中の科目があるようだが、医師確保の今後の見通しについて。

答弁 医師確保については、どこ

も病院も悩んでいる状況である。横手病院は、平成16年度に臨床研修医の指定を受け、平成17年度から受入を行っており、現在9人の研修医が勤務している。小児科医・眼科医の派遣については、秋田大学医学部に働きかけを行っているものの、なかなか厳しい状況である。横手出身の方などの情報入手に努め、独自交渉を進めるなど、努力している。一方、大森病院では、泌尿器科の医師確保ができず6年間休診中である。常勤の内科医がもう1人欲しいので、秋田大学と自治医科大学及び東京の地域医療振興協会にお願いしているところである。

質疑 両病院の未収金の状況について。

答弁 横手病院の未収金については、年々増加の傾向にあり、7月で203件、1500万円ほどである。対応策としては、月1回の督促状の発送、嘱託の徴収専門員の配置、分割納付の指導、郵便振替の利用促進を行っている。また、大森病院の未収金については、8月段階で45件、1150万円、やはり年々増加傾向にある。

▼決算特別委員

委員長	赤川堅一郎
副委員長	阿部信孝
委員	高安進一
"	佐々木誠
"	木村清貴
"	佐藤忠久
"	佐藤誠洋
"	佐藤功勉
"	塩田勉豊
"	奥山光司
"	齋藤恒男
"	小笠原徳雄
"	佐藤米男
"	石山